

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	仙台市上飯田たんぽぽホーム		
○保護者評価実施期間	2025年 2月20日		～ 2025年3月7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31	(回答者数) 29
○従業者評価実施期間	年 月 日		～ 年 月 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 11
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者との共感性ある会話を得意とする職員が多い。	日常の保護者の様子・子どもの様子を細やかに確認し、日々のやり取りの中で必要な助言を行い、内容によっては管理者とも相談しながら必要に応じて丁寧に保護者との面談を行っている。	子どもの発達の様子を具体的な根拠を示しながら保護者に伝え、進路選択などの材料にしておくことはこれからも課題だと感じている。そのためには日常の保護者との信頼関係の構築が不可欠である。
2	職員間の連携がスムーズで、クラスの活動内容・遊びの工夫について日常的に話し合いながらより良い活動内容を考え実施している。アイデアが豊富な職員がおり、遊びのバリエーションを考える助けになっている。	チームでの支援を意識して、主任やクラスリーダーが中心となり、クラスの職員の個性それぞれに合わせて役割分担している。子どもの発達段階の理解ができるよう努め、それに応じた遊びの工夫ができるよう話し合いをしていきたい。	より良い利用者支援のためには職員同士忌憚のない振り返りや意見交換が必要である。支援の仕方にフォーカスした振り返りを行い、それぞれの個別支援計画を重視した遊びについて密に話し合いを行っていきたい。
3			

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	子どもの発達の様子を、具体的な根拠を示しながら保護者に伝え、進路選択などの材料にしておくことについては課題だと感じている。そのためには日常の保護者との信頼関係の構築が不可欠である。	保護者との穏やかな関係を築くにあたり、子どもの発達の課題について言及しがたい職員もいる。各々の役割分担についても明確にしていきたい。	個別面談時の管理者などからの助言や実際の場面を想定したロールプレイ。
2	他園の情報・センターの情報・児童発達支援の現状などについて情報を取り入れる機会が少ない。	職員の行き来が少なく既存の療育が固定化しがちである。外部研修の受講は推奨しているが、受講機会は多いと言えない。	研修や会議の定期的な園内での報告実施。職員それぞれのニーズに合った研修の選択や勧奨。
3			